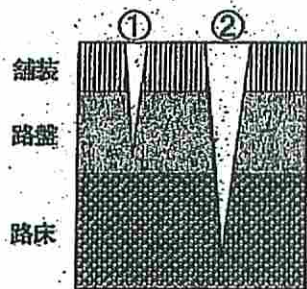


参 考 资 料

東北地方太平洋沖地震に係る道路災害復旧（舗装及び路盤の復旧）の考え方

1. 横断方向の被災の考え方

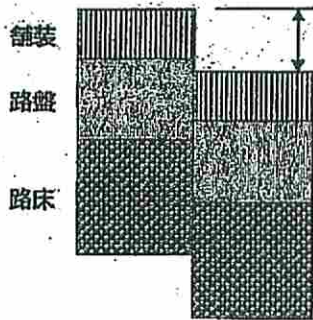
(1) 亀裂（亀裂が達している層まで開削して復旧工事を行う。）



① 路盤部まで開削して復旧工事を行う。

② 路床部まで開削して復旧工事を行う。

(2) 陥没・沈下（陥没・沈下している沈下量により開削して復旧工事を行う。）



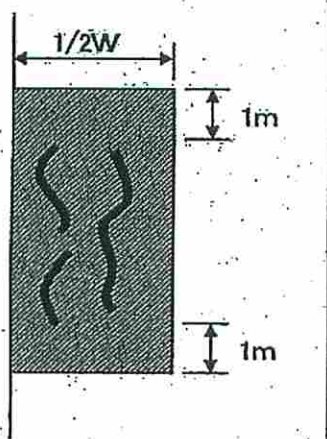
① 20cm 以下程度の陥没・沈下の場合は路盤部まで開削して復旧工事を行う。

② 20cm 以上の陥没・沈下の場合は路床部まで開削して復旧工事を行う。

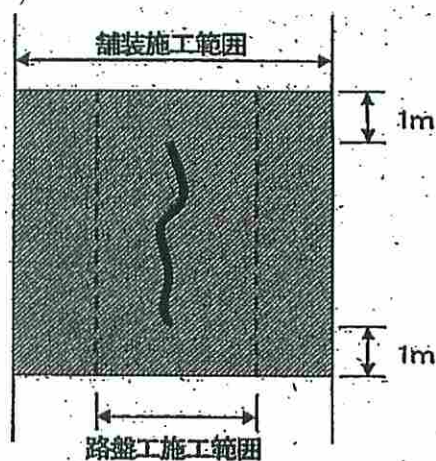
2. 平面範囲の考え方

(1) 生活用道路 (幅員が5m程度まで)

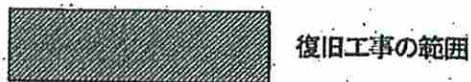
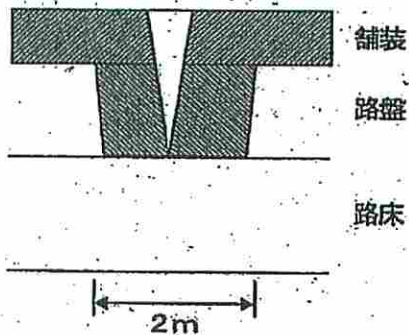
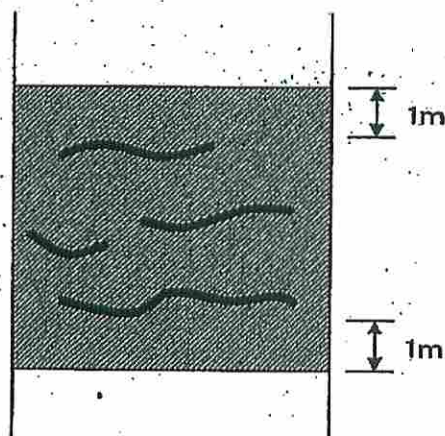
○パターン1 (片側の被災)



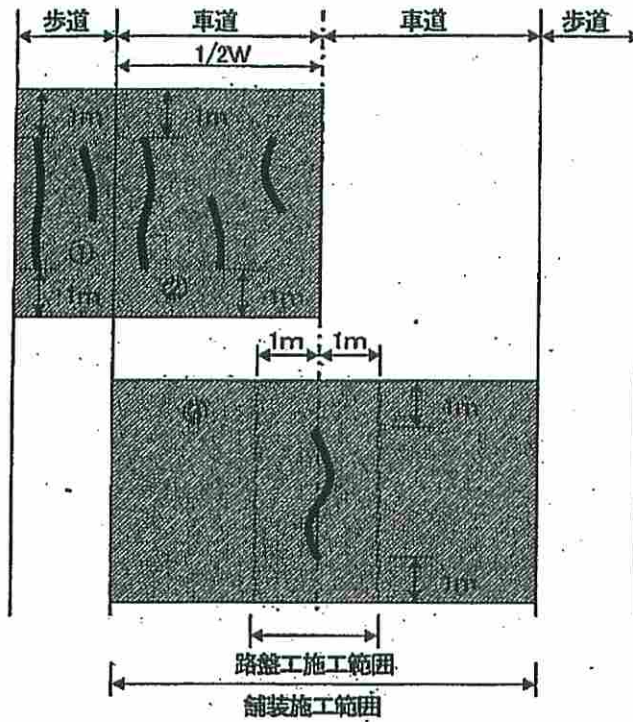
○パターン2 (中央部の被災)



○パターン3 (幅員方向の被災)



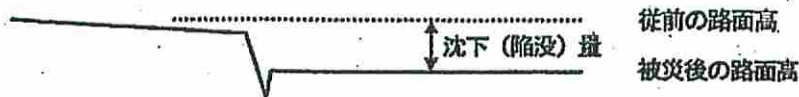
(2) 2車線以上の道路及び歩道がある場合（基本的な考え方は(1)と同じ）



- ① 歩道のみの場合
- ② 片側車線のみの場合
- ③ 中央部被災の場合（(1)のパターン2と同様の考え方）

3. 申請に当たっての留意事項

- (1) 応急復旧工事を施工した箇所については、被災状況が判る写真を添付する。
- (2) 沈下・陥没している箇所の沈下（陥没）量は、段差の量ではなく、従前の高さからの沈下（陥没）量をいう。



- (3) 2車線以上の道路におけるセンター付近のクラックとは、センターラインの左右1m範囲にある場合をいい、その場合は隣接する車線を含め2車線の舗装の打ち換えをいう。
- (4) 路床部が沈下・陥没した場合は、従来の路床高までは路床材で復旧する。